



Asahiko Habilitation Center for Children

第1号
 令和3年7月1日発行
 北海道立旭川子ども
 総合療育センター
 〒071-8142 旭川市
 春光台2条1丁目1-43
 TEL 0166-51-2126
 FAX 0166-51-2127

「新しい世界に向かって」

院長 田中 肇



はじめに

令和三年一月十九日、当センターは念願の新築移転を終え「北海道立旭川子ども総合療育センター」と名称も新たにその船出を果たしました。

本場に多くの方々のご理解とご協力がありましてこそ成し遂げられたことであり、お力添えをいただきました全ての方々から御礼申し上げます。電子カルテを含めた新しいシステム運用に慣れるまでの時間を要したこともあり、利用者の皆様には多くのご不便をおかけして申し訳ございませんでした。今後何かと不都合を感じる部分があるかと存じますが、職員が一丸となり知恵を出し合いながら工夫を重ねていくことで、小さな事からでも改善に向かっていけるように努めたいと思っております。これからも何卒よろしくお願い致します。

新しい世界に向かって

さて昨年より新型コロナウイルスという難敵に世界中が翻弄され、本当に辛い毎日が続いております。この感染症は感染そのもので人々を苦しめるばかりでなく、経済的側面など社会的にも世の中に大きな打撃を加えます。

さらにこの感染症の見えにくい恐ろしさは、今も強いられ続けている「新しい生活様式」により人間同士の接する機会が極端に制限され、これにより多くの方々に長期的な精神的ダメージを与え続けていることです。そしてその影響はきっと人との繋がりにより情緒を育むべき多感な時期を過ごす子ども達にこそ最も強く向けられるということ、我々は認識しなくてはなりません。

表題に掲げました「新しい世界」とはもちろん「三つコロナ」などという喜ばしくない世界を指しているつもりなど毛頭ありませんが、悔しいけれどもコロナを全く無視できるような世界が来るにはまだ時間がかかりそうです。しかしこの毎日が落ち着かず混沌とした情勢の中で、我々は何よりも未来を託す子ども達のために出来ること

は何かをしつかりと考え直す岐路に立たされています。はからずもコロナ禍真つただ中の船出となりました新センターには、利用者様への療育支援という王道の役割に加え、現状では否が応でも「コロナ禍により失われてはいけ

ないものを守る」という付加的な役割が求められます。今の子ども達が向かっていく世界は良くも悪くも「新しい世界」です。その世界では子ども達のメディア等への傾倒が加速し、物資に

おいても情報においても我々大人の近寄り難いものが溢れ膨れあがっていくことでしょう。しかしコロナにより子ども達に失わせてはいけぬもの、それは人と関わることでのみ得られる楽しさや喜びに他なりません。新しい世界に向かう子ども達に、学校の友達や先生と笑顔で楽しく過ごしたかけがえない日々の思い出だけは、何として

「親の死」に際して

個人的な話で恐縮ですが、昨年8月に父を亡くしました。ずっと年に一度

会うかどうかの状況でしたので淋しい思いをさせていたのではないかと悔しい思いもあつたのですが、多くの弔問に訪れた方々が町内会などの思い出を語り本当に淋しいと涙まで流される姿に直面し、ふと思つたことがあります。それは考えれば当然のことなのですが、父には父で私の知らない日々の生活があり、きっとそれはこんなにも

優しい方々に囲まれたとても幸せな毎日だったのだろうということです。伊藤整という小説家の言葉に「夕映えが美しいように、老人の場所から見た世界は美しいのです」というものがあります。夕映えはその景観だけではなく、その日の出来事を振り返り眺める景色だからこそ、多くの思いが重なってより美しく見えるのでしょう。

そして老人の場所から見た世界とは、長い人生において幾千の思い出が溢れる中で見ている風景だからこそ、この上なく美しいのだと思うのです。私が親元を離れたのは十九歳、あれ

からもう四十年もの月日が流れました。その間に私が見てきた風景とは全く違う風景の中で父は生きてきたわけですが、その日々の景色は間違いなく私の知る由もない父の歴史として積み重なっていたのです。父が亡くなる前に毎日見ていた世界が夕映えのように美しい世界であつたことを、今はただ祈るばかりです。

おわりに

この年になると、思い出がどれほど人生を豊かにする大切なものかということを感じます。人が素敵な思い出を重ねることで毎日眺める世界をも美しく感じられるようになるのであれば、今我々はまず何としても人と人が触れ合う温かく幸せな日々を取り戻さなくてはなりません。そうすることで初めて、辛く過ぎていったコロナ禍

の色あせた思い出にさえも温かな色を加えることができるのではないかと思うのです。あの頃皆で力を合わせて困難の日々を乗り越えたからこそ今の幸せな毎日がある、子ども達と共に笑顔でそう振り返る事のできる日が一日も早く迎えられることを願ってやみません。



空撮によるセンター全景



新任職員紹介
令和三年四月一日付で就任した職員の方からの挨拶です。

*コロナ対策で職員は終日マスク着用しております。写真の時だけ外して撮影しました。ご理解をお願いいたします。

庶務課職員挨拶

課長 若狭 真波



この四月に北見保健所から異動してきました若狭(わかさ)です。

私は、野幌森林公園事務所・開拓記念館(現北海道博物館)で道職員としてスタートし、その後いくつかの保健所や児童相談所での勤務を経て、今回、このセンターでお世話になることになりました。

このような施設での勤務は初めてで、まだまだ不慣れで勉強中ですが、ご利用される方々が少しでも快適にご利用いただけるよう努力したいと思っています。

令和三年一月に新センターへの移転が終わり、次は旧庁舎の解体工事がこの夏から行われる予定です。ご利用される皆様には、工事中は色々とお不便をおかけしますが、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

庶務係主事 横溝 純平

この度、旭川子ども総合療育センター庶務課に配属になりました横溝純平と申します。

北海道滝川西高校出身で高校までソフトテニス部に所属していました。

今回が初めての勤務でもとても緊張していますが、社会人としてのスタートをこの場所で皆さんと共に切られることを非常に嬉しく思っております。まだまだ皆さんに迷惑をかけてばかりですが、社会人としての自

覚を持ち、これから研鑽を積み続けていきますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

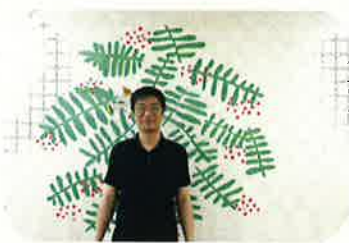
正面玄関前



会計係長 菅野 雄太

会計係長の菅野雄太と申します。昨年四月から当センターに勤務しており、本年四月一日から会計係長として勤務することとなりました。施設も新しくなって、まだまだ、慣れないことも多くありますが、子どもたちが安心して過ごせる施設になるよう努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。

庶務課壁面



本年四月に旭川医科大学歯科口腔外科学講座より異動となり、歯科医長になりました荒井と申します。当院は令和三年一月一九日より新たな名称「北海道立旭川子ども総合療育センター」となり、リニューアルオープン致しました。

会計係主事 大西 雅樹

皆様こんにちは。本年の四月一日付けで根室振興局地域創生部地域政策課から旭川子ども総合療育センターに異動して参りました、庶務課会計係の大西と申します。会計係では主に物品の購入や各種支払い・契約事務などを担当しております。利用者の皆様と直接お会いする機会は少ないかもしれませんが、快適な受診・入所環境づくりに努めて参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。

センター駐車場



医局職員挨拶 歯科医長 荒井 五織



本年四月に旭川医科大学歯科口腔外科学講座より異動となり、歯科医長になりました荒井と申します。当院は令和三年一月一九日より新たな名称「北海道立旭川子ども総合療育センター」となり、リニューアルオープン致しました。

増加傾向にある発達障がい児の専用の居室を備えるなど充実しており、歯科の診察室にも入り口や壁に動物のイラストが施されるなど子どもも大人も心が癒やされ安心してできる工夫が施されています。



歯科では発達障がいや脳性麻痺、筋ジストロフィー等により歯科治療のトレーニングが必要な患者様や当センターに入院されている患者様の歯科治療も行ってまいります。



歯科診察室



歯科医師、歯科衛生士で子どもも一人の発達に応じてトレーニングを行っております。う蝕の進行が著しくトレーニングしながらでの治療で間に合わない場合は一度入院全身麻酔下で治療することをお勧めする場合があります。

安全に子ども達が安心してできる環境で治療していきけるよう日々力を尽くしていきたいと思います。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

リハビリテーション課職員挨拶
課長 小野 栄治

四月よりリハビリテーション課長になりました小野（言語聴覚士）です。私からは、作業療法室を紹介いたします。

正面玄関から入って、自動販売機を越えたところを左に曲がり、廊下の突き当たりから右手が作業療法のゾーンとなります。作業療法室は、個別療法室四室、ADL室、感覚統合療法室の計六室があります。感覚統合療法室では、各種遊具と共にポルダリングパネルを設置し、発達障がいをはじめとする多様なお子さんたちの支援ができるよう配慮されています。

感覚統合療法室



理学療法係

理学療専門員 内田 雅之

四月より再任用職員として勤務することになりました内田です。

これまで、外来リハを中心に活動してきましたが、四月からは入院・特通を中心に関わらせていただくこととなりました。今後は、入院・特通生のご家族の皆様ともお会いできる機会が増えることと思います。コロナ禍ではありますが、コミュニケーション不足にならぬよう工夫しつつ、ご家族・児童の皆様の期待に沿えるようサポートさせていただきます。ばと考えてまいります。

職員挨拶と申ししても、古顔で申し訳ありませんが気持ちはフレッシュな気分です。どうぞ、今後ともよろしくお願いいたします。

運動療法室2



言語聴覚係長 筒井 美奈子

四月から言語療法係長になりました。「係長」と呼ばれるのに未だ慣れず、呼びかけられても一瞬「だれ？」と戸惑う毎日です。皆様のご協力の下日々精進、です。

新センターになり、「ことばのへや」もきれいになりました。新たに聴力検査の機器が入ったり、3と4のへやをつなぐ前室からマジックミラーで中を見られるようになったりと、パワーアップ。これからもみなさんに「楽しかった」と思ってもらえるリハをしていきたいと思っています。

ことばのへや



言語聴覚士 千葉 優花

五月に言語聴覚士として初めて就職をしました。千葉優花です。生まれつき足に不自由があり、小さい頃から旭川子ども総合療育セン

ターでお世話になった患者の一人です。
 言語聴覚士として、患者様の治療は当然のことながら、そこに患者様とその家族の方々の笑顔と夢や希望を生み出せるよう一生懸命頑張っていますのでどうぞよろしくお願ひ致します。

ことばのへや前室



地域連携課職員挨拶
 課長 佐藤 憲昭

新センターの名称変更に伴い、指導課も地域連携課となり、私自身はセンターは三度目の勤務です。四年前の旭肢だよりも挨拶文を書かせていただきました。趣味は家庭菜園、今年はやが芋に挑戦。料理はうどん・蕎麦打ち再開。又焼作りも始めました。新たなことを始めるのは還暦になっても楽しいです。干支も一巡したので新たな気持ちで、新センターの業務を楽しみながら、関わっていききたいと考えております。

どうぞよろしくお願ひいたします。

壁面イラスト



地域支援係

主任 杉本 高則

四月より一階の地域連携課で行事や療育に関わる仕事をしています。これから行事など楽しみにしています。入所されている児童・生徒のみなさんは二階の生活棟で入院生活を送りながらリハビリを受け、養護学校に通い、頑張っている姿を見て、私も力をもらっています。
 入所のみなさんが療育センターから退所されるときには成長した姿を見られるよう頑張りますので、よろしくお願ひします。

地域連携課内相談室



生活支援係

保育士 高貝 明日香

皆さんこんにちは。

私は地域連携課生活支援係の高貝明日香と申します。絵を描いたり、制作がとても好きで、新センターへ移動した際には地域連携課の看板も作らせて頂きました。お越しの際は是非ご覧下さい。
 私たちは保育室や図書プレイルームで保育をすることが多く、絵本やゲーム、様々なおもちゃを用意しています。また、図書プレイルームの窓からは天気が良いと大雪山を見ることもできます。子どもたちが楽しく生活できるよう日々努力していきますので、今後もよろしくお願ひ致します。

保育室



特集
 今回は看護部の業務内容についてご紹介します。

生活棟

生活棟は乳幼児から十八歳（原則）までのお子さまが入院し、運動機能や日常生活動作を評価し、診療やリハビリテーションを受け、生活機能

を身につけて、社会生活への自立に向けて支援をしています。平日は学校に通いながら、障がいをもつ友だちと一緒に集団生活をしています。持てる力を伸ばしていきけるよう多種（学校教諭も含む）とも協働しています。
 また、子どもの権利（安心・自信・自由）を守るよう生活環境を調整し、発達段階に伴う様々な課題も乗り越えられるよう、保護者や地域関連機関とも連携を図り、お子さまの最善の利益を考えながらケアをしています。

生活棟食堂



ナースステーション



親子棟

親子棟はお子さまと保護者が一緒に一定期間入院し、お子さまの成長発達に合わせた運動機能や日常生活動作習得に向けての訓練、保育・診療・療育講義等のスケジュールで共同生活を行います。スマールステップの目標でチャレンジ！褒めて伸ば

す関わりで支援しています。
 また、お子さまの療育が自宅に戻ってからも継続できるように多職種と話し合い、入院経過を保育所や通所施設等に連絡しています。新センターがオープンし、利用された方から「お部屋がきれいで明るくなった」「お風呂とトイレが使いやすくなった」の声をいただいています。



中材・手術室

こんにちは、中材・手術室です！
 中材とは中央材料室の略で、使用した器材の洗浄や消毒・滅菌作業、衛生材料の管理を行っています。手術室では現在、全身麻酔での歯科治療を行っています。手術当日以外にも、前後の病棟訪問などで安心して手術が受けられるよう対応しています。新しい施設になり、中央材料室も手術室もきれいになりました。



外 来

外来では、一昨年より、医師が必要と判断した時に、看護師による神経発達症のお子さんを対象にソーシャルスキルトレーニング（SST）、子育てに悩みを抱えている親御さんを対象にペアレントトレーニング、肥満のお子さんを対象にヘルシー外来を行っています。
 昨年は新たにペアレント教室を年2回開催し、参加者から高評価を得ました。コロナ対策を行いながら、今後も、発達に悩みを抱えるお子様を理解し、取り巻く人々のニーズに対応できるようにしていきたいと思っております。

計測室



待合室



第4診察室



令和三年度行事予定

〈令和三年〉

七月二十一日
 親子まつり
 療育相談
 終業式

十月 十三日 お楽しみ会
 十二月二十二日 クリスマス会
 十二月二十四日 療育相談
 終業式

〈令和四年〉

二月 二日 豆まき
 三月 二日 ひな祭り
 三月 九日 誕生送別会
 三月十一日 卒業式
 退院式

愛児の会だより

令和二年度報告

令和二年

◇四月◇
 定期総会 中止

イオンの『幸せの黄色いレシートキャンペーン』登録。

◇五月◇
 賛助会員募集（九十四名）

◇六月◇
 花壇の苗植え（ひまわり、グラジオラス、ミニトマト他）

◇七月◇
 おやこまつり参加

（金券ショップへ助成・バザー・店開店と飲料水販売）但し、保護者不参加

◇九月◇
 第一回理事会

◇十一月◇
 花壇の花を片付け、チューリップの球根を植える。

◇十二月◇
 会員の子ども達にクリスマスプレゼントの補助。

令和三年

◇一月◇
 新センター落成・移転
 雪像作り中止

◇二月◇
 センター落成のお祝いとして
 電子からくり時計二台贈る。



滝上町佐藤さんからお祝いを頂き電子からくり時計を一台買いました



第一回やまぶき会と合同対話集
会を中止し、書面による質疑応
答を実施

◇三月◇

第二回理事會

會報「夢」発行

退院生に記念品贈呈（高等部
卒業生）

◇一月から十二月まで◇

○再生資源回収（古新聞・古雑誌

・古着・アルミ缶・スチール缶

・段ボール等）

○ベルマーク回収（ベルマーク・

テトラパック・使用済みインク

カートリッジ）

△理髪料金受け払い業務

會員一回につき三〇〇円の補助あ

り。

△公衆電話管理業務

△自動販売機管理業務

◎今年度の愛児の会会長は神田飛鳥

さんです。

ご協力をよろしく願います



令和二年八月一日から

令和三年五月一日まで

《退職》

令和二年九月三十日付

医療・看護・リハビリテーション職

指導主任看護師 奥出 佳子

令和三年三月三十一日付

医療・看護・リハビリテーション職

医長 本橋 征之

事務職（保育士）

保育士 田中 史子

保育士 守村 千里

主任 橋本 隆行

《転出》

令和三年四月一日付

医療・看護・リハビリテーション職

療養専門員 鎌田 達郎

（釧路総合振興局保健環境部

保健行政室企画総務課理療

専門員へ）

事務職

地域連携課長 宮下 靖司

（室蘭児童相談所子ども支援

課主幹兼主任児童福祉司へ）

庶務課長 平井 直子

（保健福祉部地域医療推進局

医務薬務課主幹へ）

会計係長 鈴木 雄介

（保健福祉部高齢者支援局

高齢者保健福祉課地域支援

係長へ）

主任 柴 敏之

（上川総合振興局保健環境部

社会福祉課主任へ）

《新規採用》

令和二年八月一日付

医療・看護・リハビリテーション職

言語聴覚士 井上 愛菜

令和三年一月一日付

医療・看護・リハビリテーション職

主任看護師 木村 晴美

令和三年四月一日付

医療・看護・リハビリテーション職

医長 荒井 五織

事務職

主事 横溝 純平

令和三年五月一日付

医療・看護・リハビリテーション職

言語聴覚士 千葉 優花

《転入》

令和三年四月一日付

地域連携課長 佐藤 憲昭

（オホーツク総合振興局保健

環境部紋別社会福祉事務

出張所長から）

庶務課長 若狭 真波

（オホーツク総合振興局保健

環境部北見地域保健室企画

総務課企画主幹から）

主事 大西 雅樹

（根室振興局地域創生部地域

政策課主事から）

編集後記

令和三年一月十九日に新築移転し、「北海道立旭川子ども総合療育センター」に名称が変わりました。昨年は新センターが未完成のため、ご紹介できなかったセンター各所を見ていただきたくて、外観・内装等の写真を多数掲載しました。

また、このロゴマークのデザインは、道立旭川高等技術専門学院の印刷デザイン科2年生（昨年度）の目黒七緒さんが、当センターの公募に応募していただいて、決定されました。



以前に誌面の文字が詰まっていた、見づらいところご指摘もありましたので、今回文字間隔を空けて画像を増やしました。更にセンター新名称変更に伴い、長年使用してきました広報誌の名称「旭肢だより」も刷新し、職員からの募集・投票により、題字は「アサッコ」に決まりました。従前同様ご愛願願います。題字のデザインはセンター内で多数のイラスト制作に携わる齋藤理学療法係長にお願いしました。今後ともよろしく願いました。

（地域連携課担当）